

学校法人石田学園

2024 事業計画



Message from President

学長挨拶



広島経済大学は、1967（昭和 42）年、歴史ある武田山の麓に開学しました。大学の経営母体である石田学園創立の理念は「和を以て貴しと為す」、大学開学の理想は「大学の道は明德を明らかにするに在り」であり、こうした理念理想のもと、教育の拡充を図ってきました。経済学部、経営学部、メディアビジネス学部の 3 学部を備える社会科学系の総合大学として、次代を担う人材である「ゼロから立ち上げる」興動人、すなわち既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を持ち、仲間と協働して何かを成し遂げる力を備えた人材の育成を目指しています。

少子化という大問題が背景で進行する中、地方の私立大学が存在し続けるためには、大学の価値を学外に明確に示す必要があります。大学の価値は、研究と教育です。本学では特に教育を重視し、次代を担う学生を育成して国家社会へ貢献することに価値を置いています。時代にふさわしい、より良い教育を目指して中期計画（2024-2028）を策定しています。今回、そこへの道筋を描いた「1 年目」の目標として、2024 年度事業計画を作成いたしました。

広島経済大学では、学生が仲間とともに切磋琢磨して今を生き抜くゆるぎない力を身につけることを願い、多様な学びと経験の機会を提供するよう、努力を続けてまいります。今後とも、あたたかなご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

学長 石田 優子

建学の精神「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治 40 年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「和を以て貴しと為す」としました。

立学の方針「大学の道は明德を明らかにするに在り」

本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、明德（本来持っている曇りのない本性）を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを教育の理念としています。

教職員の行動指針「Be Student-oriented（すべては学生のために）」

Mission

「ゼロから立ち上げる」興動人の育成

少子化、AI やテクノロジーの進化、世界情勢の変化、多様化、コロナウイルスのもたらした価値観の変容など、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。混迷する時代に求められる人材とはどういう人か、私たちは問い続けてきました。そして掲げた人材像が、「ゼロから立ち上げる」興動人です。

興動人とは、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることでできる力を備えた人材。本学では「興動人」を実践的に育成するために、「社会人として必要な学識を養う」、「人間力を培う」、「自分を表現する能力を身につける」ことを柱として、さまざまな取り組みや特色ある学習プログラムを実施しています。いかなる時代をも、明るくたくましく生き抜く力を育てることが、私たちのミッションです。



Vision

1. 長期ビジョン

安定した経営基盤のもと、特色ある高品質の教育で地域社会と経済の発展に寄与し、中四国地区で No.1 の教育力を誇る私立大学としての名声を確立する。

目指す姿

- ・ 学生であることに誇りが持てる大学
- ・ 地域の高校生誰もがあこがれる大学
- ・ 教職員であることに誇りが持てる大学
- ・ 卒業生であることに誇りが持てる大学
- ・ 保護者が自分の子供を自慢できる大学



2. 中期ビジョン：2028 年度までの達成目標

特色ある教育プログラムを持つ、私立の社会科学系総合大学として、地域の教育界をリードし、次代を担う人材を育成する大学の地位を確かなものとする。

2028 年にどういう大学でありたいか

以下の3点において、No.1 の大学を目指します

1. 挑戦する大学

「学ぶのは、行動を興すため」という本学のポリシーにもとづき、変化をチャンスととらえ、機動力と独自性を発揮して挑戦しつづける大学になる。

2. 学生を伸ばす大学

地方中堅大学の利点を活かし、知識と経験を重視した教育と手厚い支援体制を確立。

「興動館教育プログラム」の推進と、4 年間一貫のゼミ教育を通じて
「最も学生を伸ばす大学」としての評価を獲得する。

3. 地域に愛される大学

人材の育成に加えて、研究力を高めて成果を発信し、社会の発展に寄与する。
学生の諸活動を通じて培った地域との絆をさらに深め、愛される大学になる。



広報・ブランディング

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

大学の発信力を高める / ステークホルダーとのコミュニケーションの強化 / 情報公開体制の整備

教育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

興動人育成のための教育を促進 / 時代に対応した教育の展開 / 教育改革の促進 / 教育支援 / 学生支援 / 個性的な施設を活用した教育の推進

研究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」

研究支援体制の整備 / 成果の教育への還元 / 成果の社会への還元

グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」

国際交流事業支援 / グローバル教育の推進
キャンパスの国際化 / HIROSHIMA から世界へ

地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」

地域連携の深化 / 大学のリソースの提供と学習機会の推進 / 興動館や立町キャンパスの活用 / スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

経営基盤

財政基盤の強化 / 危機管理体制の強化 / キャンパスの環境整備 / 内部質保証

アクション・プラン

本事業計画は、「2024-2028 中期計画」に基づき、初年度となる今年度の重点および新規実施項目に関してまとめたものです。

なお、文章内の【 】は、中期計画に記載の文であることを意味しています。

1. 広報戦略

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

アクティブな学びを発信し、輝く広経大ブランドを確立

日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

■ 大学の発信力を高める

- ・【全学的な広報活動を推進すべく、教職員の意識改革をはかる】ため、日常の業務について、常に広報視点、客観的視点をもって取り組む。
また、学長室および入試広報センターの広報部門は、イベント等で撮影した写真等を積極的に各部署へ提供し、各自の発信力向上を促す。
- ・教育に関する情報数について、学科間のばらつきを是正する。
特に、ビジネス情報学科、経済学科の情報増加を図る。
- ・学部学科から広報部門への情報提供がスムーズに行われるよう、連携を強化する。
- ・情報発信源が特定の教員に固定化しており、この課題の解消をはかる。
- ・2024 年度は動画配信に着手し、大学公式 YouTube チャンネルを稼働させる。

■ ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

- ・【同窓会とのより一層の連携強化を図る】ため、大学広報や公式 SNS について、同窓会会報への掲載など、同窓生への周知をはかる工夫を検討する。
- ・【高校および高校生への情報提供の工夫】について、年内入試へのシフトを念頭に、入試広報センターと学長室で配信のタイミングなどについて再検討する。
- ・高大接続に向けた取り組みを推進する。
- ・研究成果の社会への還元を推進する。
- ・オープンキャンパスや各種説明会などの機会を通じた保護者等への情報提供の工夫をする。
- ・地域社会との積極的な情報交換を行う。

■ 情報公開体制の整備

- ・法令に従って適切な情報公開を行うとともに、情報へのアクセス方法のわかりやすさなど、ステークホルダー目線にたった工夫をする。

2. 教 育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

■ 興動人育成のための教育を促進

“ゼミといえば広経大”、学びの面白さを発信

『4年間一貫、少人数ゼミの特色を生かして、ユニークな活動を実施』

- ・【企業や地域と連携して、課題解決に向けた提言作成に取り組む活動の実施】を、すべてのゼミに広げるべく、2024年度はまず、教員と学外団体の連携によって関係構築を進め、学生が活動に関わっていくための下地作りを行う。

■ 興動館教育プログラムの充実

- ・【科目の充実と履修者の増加】に向け、新規興動館科目案について協議を行う。
- ・【興動館プロジェクトの充実】に向け、社会貢献分野の社会課題を洗い出し、「プロジェクトの種」として学生に示し、新規プロジェクトの立ち上げを促す。
- ・【既存プロジェクト活性化】のため、プロジェクト運営に必要なスキルを身につける各種研修会を開催する。
- ・プロジェクトをサポートする【コーディネーターの充実】に関しては、その業務内容を明確化して教職員の理解促進を図り、関与率を上げる。



(左：ゼミの産学連携で企画したビール、右：新スタジアムでのプロジェクト活動の様子)

■ 時代に対応した教育の展開

■ 初年次教育の充実

- ・【リメディアル教育（学習支援）の充実】を目指す。
 - a) 総合型選抜、学校推薦型選抜合格者対象の入学前課題の進捗率を向上させるための施策を検討する。
 - b) 教員やスチューデントアシスタント（SA）による学習支援活動の充実に向け、ワーキングを通じて問題点などを検討する。
- ・【アカデミックスキルの確実な修得】のため、1 年次必修の「入門ゼミ」の内容のチェックおよび改善を継続する。

■ データサイエンス教育プログラムの周知と推進

- ・【プログラムの周知と履修者数の増加】のため、各学期初めの履修ガイダンスでプログラムの重要性や科目内容を紹介する。履修者目標は 300 名とする。
- ・【プログラムの履修必修化】に向けて、オンデマンド授業導入など授業の在り方について検討する。

■ 時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・【ICT 技術を活用した教育（授業）の推進】のため、FD 研修会の実施、授業での活用事例集の作成に着手する。
- ・教育現場における生成 AI の活用に向け、教職員自身のリテラシーの向上を図る。
- ・【IR（Institutional Research）による教育プログラムの改善支援】に向けて、教学情報に関わるデータ分析の手法を改善し、IR 委員会による適切な提案につなげる。
- ・オンライン授業に関する FD 研修会を実施する。

■ 教育改革の促進

■ 教養教育

『本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う』

- ・自己理解系科目および他者理解系科目について、内容の見直し、科目の改廃・新設、同一科目の複数クラス開講などについて検討を始める。
- ・英語科目について、学生の学修意欲を喚起するため、レベル別コンテンツの開発や能力別クラス編成などを含む、英語改革に着手する。
- ・論理的思考の獲得を目指す日本語文章表現科目群については、読解力の向上に重点を置いた科目の新設を検討する。

■ 経済学部

『地域社会に信頼される経済学部として、グローバルな視座を備えた、地域に貢献しうる人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す』

- ・【理論と実践を組み合わせた経済学教育の確立】に向け、具体的な新規科目、教育プログラムの設置検討を行う。
- ・【広島を中心とした地域経済の課題を分析し解決策を模索する】地域研究科目の充実をはかる。
- ・【金融リテラシーから理論までを網羅する金融教育の確立】に向け、人生設計をふまえた体験型金融教育プログラムの作成に取り組む。

■ 経営学部

『広島地域の企業を中心とした産学連携を強化し、実践的なビジネス教育を通じて、産業界をけん引する学部を目指す』

- ・【アントレプレナーシップの醸成による実業に結び付く教育内容の強化】に向けて、ゼミ単位での産学連携強化を図る。
- ・【産学連携をベースとした科目の見直し】に向け、ビジネスコンテストの実施などビジネスプランニング能力の強化を図る。
- ・スポーツ経営学科では、【スポーツビジネスを実践する力を養う科目体系の見直し】に着手する。

■ メディアビジネス学部

『コンピューターや AI、情報通信、各種メディアの急速な進化と現代社会の要請に柔軟に対応し、新しい価値を創出し次代のビジネスを牽引できる有為なビジネスパーソンを育成する中四国唯一の学部を目指す』

- ・【業界最先端の理論や知見を学ぶ学部科目の検討】に向け、メディアビジネス学科では、新規科目（映像などデジタルコンテンツ）の設置を推進する。
- ・ビジネス情報学科では、時代の要請を確認し、文系としての IT スキルやリテラシーを修得するためのカリキュラム再構築の検討に着手する。
- ・【多様な進路と豊かな職業選択を考えさせるキャリアプログラムの開発】に向け、まずは学部独自のインターンシップ先の開拓をはじめる。

■ 大学院経済学研究科

『社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、新設科目の検討、授業内容の見直し、大学院生のキャリアパスの拡充などを行い、研究の拠点として誇りうる大学

院の創造を目指す』

- ・【**税務会計分野のカリキュラムの充実**】に向け、教員の補充・充実を図り、科目・コンテンツ増を検討する。

■ 教育支援

■ ピア・サポートを支援

- ・教員と連携し、一部の科目において SA の人数が不足している問題の解消をはかる。
- ・「ピアサポーター養成講座」の受講対象を広げる。

■ フォローアップ体制の整備

- ・【**ラーニングサポートコーナー（LSC）の活性化**】に向け、教員による講座（TOEIC 等）や、学生によるテスト対策講座（英語・簿記）等をきっかけとして個別相談へつなげる。
- ・【**SA のスキル向上を支援**】するため、定期的に研修会を行うとともに、TOEIC 等の検定の受験を促す。
- ・【**成績不振学生に対する早期対策**】として、授業の出席不良者情報を基に低単位修得者になりうる学生を早期に抽出し、担当教員やクラブ・サークル顧問等と教育・学習支援センターが連携して、学生を LSC での補習へ導く。
- ・各学期初めの全学生を対象とした履修指導や、1 年次後期及び 2 年次前期終了時におけるフォローアップガイダンスを継続する。

■ 学びへの挑戦をサポート

- ・【**資格取得支援講座の充実**】に向け、学生の意見や企業等のニーズ、他大学の講座開設状況などを調査する。
- ・教育・学習支援センターやキャリアセンターなど関係部署が連携し、英語の検定や公務員試験、教員採用試験など、同じ目標を持つ学生がともに励ましあって学べる環境の整備（研究会など）を後押しする。

■ 学生支援

■ 奨学金制度

- ・学業成績優秀者奨学金の他、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などのさらなる充実を図る。

■ 「オーダーメイド」の就職支援

- ・企業訪問により情報収集を行うと同時に、学内合同企業セミナーへの参加を依頼する。

- ・【公務員合格者数の増加をはかる】ため、公務員希望者を把握し、公務員対策講座への参加を促す。
- ・【地元就職を目指す学生の支援】のため、Uターン就活講座の内容を充実させる。
- ・【学部特性に見合う就職先の開拓】として、特にメディアビジネス学部特性に見合う就職先について、教員と連携して開拓する。
- ・【低学年次からのキャリア教育強化】として、キャリア科目「社会人基礎学力（計算）・（論理）」「キャリアスキルズⅠ・Ⅱ」の履修を促す。

■ 女子学生支援

- ・キャリア支援として、履修生の評価が高い「女子学生支援関係科目」を継続する。
- ・キャリア支援イベントの参加学生数の増加を目指し、学生スタッフとも協議の上、内容や告知方法を見直す。
- ・SNSによる広報活動やイベント運営（企画・準備を含む）を通して、学生スタッフのスキル向上をサポートする。

■ 学生活動の支援

- ・退学予防対策に関して、【学生対応に関する学内連携を促進】する。
早期からの継続的な対応に向け、教育・学習支援センター、学生課、教務課の学内連携を促進する。
- ・【学務センター スポーツ支援課（2024年4月設置）による支援体制を確立】する。
 - a) 各種大会の案内、結果を「見える化」して、学内の応援体制を構築する。
 - b) 学友会体育局の体制強化と主体性の確立。
 - c) 定期的に指導者、学生に対して研修会を実施する（薬物、SNS等）。
 - d) 多様な学生に対応するため、学生相談室や保健室、学務センター内の連携をはかる。



（左：ピア・サポート、右：キャリア支援）



(左：新入女子学生 Welcome Party、右：スポーツ実績型入試対象者ガイダンス)

■ 個性的な施設を活用した教育の推進

■ 「知の館」としての図書館

- ・【Society 5.0 の時代に対応した人材育成のための情報資源の拡充】のため、各学部教育目標に沿った専門的資料と「多様性の理解」が深まる資料のバランスを考慮し、拡充を図る。
- ・【図書館情報リテラシー教育のためのゼミ単位ガイダンスのブラッシュアップ】として、4年間を通して段階的に行う図書館ガイダンス（案）を再検討する。
- ・【非来館型サービスの充実】に向け、学外アクセス可能な電子資料の利用促進を図り、また、時代に即した設備への改修案の検討を始める。

■ 「創造の館」としての明德館

- ・明德館 7-8 階の利用者数（授業日）について 1 日延べ 200 名を目指す。
- ・アクティブ・ラーニングに関する F D 研修会の実施や、授業への導入事例集の作成に着手する。

■ 「実践の館」としての興動館

- ・興動館教育プログラム改革「興動館 NEXT10」に基づき、ワーキングを定期的開催することで各事業の評価・改善を行う。

■ 世界遺産島内「特別な経験の場」としての成風館

- ・成風館を利用したゼミ合宿等活动への支援を継続する。

■ 「情報教育の中枢」としてのメディア情報センター

- ・パソコン教室リプレイスに向けて、ノートパソコンの活用を考慮した設備計画を推進し、年度末までに整備を実施する。



(左上：図書館、右上：明德館、左下：宮島 成風館、右下：興動館)

3. 研 究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」 社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合って意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、研究活動を大学内部だけに限定せず広く実業界や市民社会に拡大していくことを通じて、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

■ 研究支援体制の整備

■ 支援体制の充実

- ・ インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿に対する新たな支援策を検討する
- ・ 科学研究費助成事業に応募するための申請書作成ポイントに関する説明会の充実を図る。
- ・ 科研費に関する支援策の見直しを検討する。

■ コンプライアンスへの取り組み強化

- ・ 研究不正対策ツールを導入する。
- ・ 研究倫理関係規程を整備する。
- ・ 公的研究費の適切な管理について最新動向を確認し、必要に応じて改善する。

■ 研究成果を教育や社会へ還元

- ・ 教員の研究から得られた新たな知見を授業に反映するよう、授業内容の見直しを行う。
- ・ 地域課題解決に向けた共同研究や産官学連携事業のシーズの発見に着手する。

4. グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」 ここから世界へー 真のグローバルリストを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えます。

■ 国際交流事業支援

■ 世界で活動する学生プロジェクトを支援

- ・ 海外での活動を伴う興動館プロジェクトへの助成を継続する。
- ・ **【上記プロジェクトが、高校生や地域社会に対し、活動を通じて学んだ問題を伝える事業を展開する】** よう後押しする。

■ 海外の関係校との連携の強化

- ・ 姉妹校や協定校、NIBES 加盟校との関係を強化する。
 - a) タイ王国の 3 大学との関係を強化するために、「広い世界を体験してみよう」の授業を通して COIL 教育方式※を活用した短期体験留学を実施予定。
 - b) NIBES 30 周年総会（2026 年）に向けた加盟校同士の関係強化の動きに合わせて、新たな協定締結の交渉を開始する。また、現在の協定校との教育研究交流（教員交流や共同研究会への参加）等の強化を試みる。
- ・ **【新規の姉妹校や協定校の開拓】** として、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学（UBC） English Language Institute との MOU を締結し、学生の留学募集を開始する。



(右：短期交換留学プログラム STEP の開講式)

※COIL（Collaborative Online International Learning）：オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法

■ グローバル教育の推進

- ・ 留学生の受け入れと、学生の送り出しの強化をはかる。
- ・ 2024 年度留学生の受け入れ目標数は、卒業生と同数（18 名）を目指して、リクルーティング対策を強化。国外（韓国）フェアに出展及び日本語学校を訪問するなど積極的に実施する。
- ・ 交換留学生は前年度と同様に 50 名（前期 25 名・後期 25 名）を目指す。
- ・ 派遣留学目標数は、短期体験留学 10 名、短期語学留学 10 名、長期語学留学 2 名を目指す。アジアを重視し、徐々に派遣数を増加させていく計画である。
- ・ Global Ambassador AO 入試を再度検討し、事業計画の最終目標として、この AO 入試制度を利用して入学した学生が、NIBES 加盟校への正規交換留学ができることを目標とする。さらに、これらの学生が学内の英語での専門科目（留学生科目）をも受講することを試みたい。2024 年度は、この制度の計画立案の準備の年とする。
- ・ 英語による専門科目を増やし、カリキュラムの国際化を図る。
- ・ **【オンラインを利用した体験留学プログラムの充実】** に向け、2024 年度は「広い世界を体験してみよう」を再度実施する。

■ キャンパスの国際化

- ・ **【留学生と日本人学生の交流、学びあいの促進】** に向け、新規の企画（Meetup Community Gathering 掲示板）を設置、留学生と日本人学生が簡単に参加できる「交流の場」や「イベント」等の情報管理プラットフォームの実施を試みる。
- ・ 明徳館 5 階を活用し、交換留学生の国の Holiday や祭りを紹介するイベントを年 2 回計画する予定。

■ HIROSHIMA から世界へ

- ・【HIROSHIMA から世界へ】という項目を含む教育プログラムの構築を目指して、2024 年度はプログラム内容を検討する。10 日間のサマー・プログラムを予定。
- ・広島がスポーツや平和における「世界のハブ」となるための施策に協力する。
- ・【広島で学ぶことの意義を伝える教育プログラムを構築する】ため、具体的な教育プログラムの設置検討を開始する。

5. 地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」
人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

■ 地域連携の深化

■ 地域連携事業の促進

- ・【行政や地域団体と連携し、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす】ため、まずは教員と地域団体との関係構築をすすめる。
- ・【社会貢献分野に関する新たな興動館プロジェクトの立ち上げの推進】に向け、地域連携協定を結ぶ安佐南区社会福祉協議会等から情報を得て新規カウンターパートの開拓を行い、学生とマッチングする。

■ 地域企業との連携の強化

- ・包括協定を締結している企業や官庁との連携を強め、提携事業を推進する。
- ・【研究を活かした新たな産官学連携協定先の開拓】のため、本学教員の研究実績及び最新動向を収集・管理する仕組みを構築する。



■ 大学のリソースの提供と学習機会の推進

■ 社会人向けのキャリアアップ・プログラム（CP）

- ・オンデマンド講座の拡充など、受講生のニーズを捉えた授業方法の改善。
- ・CPの目的やターゲットを再確認するとともに、アンケート結果を基にニーズを捉え直す。
- ・【受講者数の増加を目指す】ため、ターゲット層の興味・関心に沿った媒体への広告出稿を検討する。
- ・【CP受講者が受講後も交流できる環境の支援】を目指し、コミュニティづくりのための適切な方法を検討する。
- ・企業への聞き取り調査等からニーズのある内容を割り出し、科目の改廃を検討する。

■ リソースを地域へ還元

- ・地域対象の公開講座を充実するとともに、その周知方法を再検討する。
- ・自治体、企業や地域団体への、課題解決に向けた調査・分析・提案への協力を推進する。



■ 興動館や立町キャンパスの活用

- ・企業や地域のニーズを探るためのアンケート調査を実施する。

■ スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

- ・国際スポーツサロンを開催する。
- ・安佐南区社会福祉協議会との地域連携協定に基づき、災害時のボランティア体制及び学内の体制について、文書化、規程化を行う。

6. 経営基盤

■ 財政基盤の強化

- ・教育活動資金収支差額の支出超過を改善するため、学生数の確保を目指し、収支バランスの均衡を図り、長期的に安定した経営基盤を構築する。
- ・2024 年度の新入生数が予想を下回ったため、24 年度予算は、学生納付金が減少、その結果として教育活動収支がよりタイトになることが判明した。そのため、教育研究経費、管理経費の執行について、教育の質を担保した上で、さらなる業務の見直し、合理化に取り組むよう各部署に対して要請することで、教育活動収支の均衡を図るよう努力する。
- ・教育活動外収支については、適切なリスク管理の下で安全面に配慮した資産運用や保有資産の活用を行い、安定的な財務基盤の確立を目指す。

■ 危機管理体制の強化

- ・事業継続計画（BCP）第 2 版の作成に着手する。
- ・2024 年度は教職員の防災訓練実施の検討やファーストミッションボックス（FMB）※の研究に取り組む。
- ・各部門、部署との連携をもとに防災に関する意識を高めていく。
- ・危機管理対応として、2008 年に作成したマニュアル（危機管理委員会）について定期的な見直しや教職員への周知徹底を強化するために研修会を実施する。

※FMB とは、災害時、その場にいる人が迅速かつ適切に初動期のオペレーションを実現するための方法。（一般社団法人 危機管理教育研究所サイトより）

■ キャンパスの環境整備

- ・【SDGs を意識し、事業の効率化やペーパーレスを推進】するため、教授会における会議ペーパーレスを 2024 年度から実施。さらに他会議でのペーパーレスに取り組めるよう啓発していく。
- ・ハイブリット型授業が展開できる教室、授業について学内施設（教室）の分析及び、予算のための見積もりを実施する
- ・メディア情報センターのパソコン教室について、Windows11 対応を含めた設備の更新を実施し、2025 年度から運用を開始する。
- ・【施設のカーボンニュートラル化を進める】ため、改修・改築予定の施設・設備について、カーボンニュートラル化に向けてのロードマップを作成する。

■ 内部質保証

- ・ 自己点検・評価第4期認証評価に向けて、2025年度からの新基準に対応すべく、準備を進める。24年度は新旧基準対応表の作成と29年度受審までのロードマップを作成する。
- ・ 【教育の内部質保証】のため、休補講情報の調査など適正な授業実施について監査を行う。
- ・ 授業改善や学生対応に関するFD研修会を継続して実施する。
- ・ SD研修会の内容および開催数を見直し、職員の能力開発にも力を入れる。
- ・ FDおよびSDについて、実施後のアンケート実施など効果測定に取り組む。

学年暦

【4月】 入学式 新入生セミナー（江田島） 新入生各種ガイダンス 前期授業開始 興動館プロジェクト認定式 【5月】 高校教員対象大学説明会 学生大会 【6月】 定期演奏会 オープンキャンパス 春季保護者会役員会 【7月】 オープンキャンパス 研究倫理及びコンプライアンス研修会 保護者対象就職説明会 【8月】 前期学内定期試験 夏季休暇 前期追試験 夏季集中講義 オープンキャンパス 前期再試験 【9月】 大学院Ⅰ期入試 教職員セミナー 後期授業開始 総合型選抜入試 前期学位記授与式	【10月】 3年生対象就職ガイダンス 大学祭 全学ゼミ対抗スポーツ大会 同窓会総会 国際スポーツサロン 【11月】 祇園・興動祭 学生大会 秋季保護者会役員会 業界・企業研究対策講座 学校推薦型選抜入試 【12月】 Uターン就活講座 卒業生による就活セミナー 興動館プロジェクト活動報告会 冬季休暇 【1月】 新年互礼会 創立記念日 後期学内定期試験 新年度興動館プロジェクト立ち上げ説明会 【2月】 後期追試験 一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅰ期入試 学内合同企業セミナー 後期再試験 大学院Ⅱ期入試 留学生入試Ⅰ期 【3月】 一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅱ期入試 留学生Ⅱ期入試 学位記授与式 学生定期健康診断
--	--